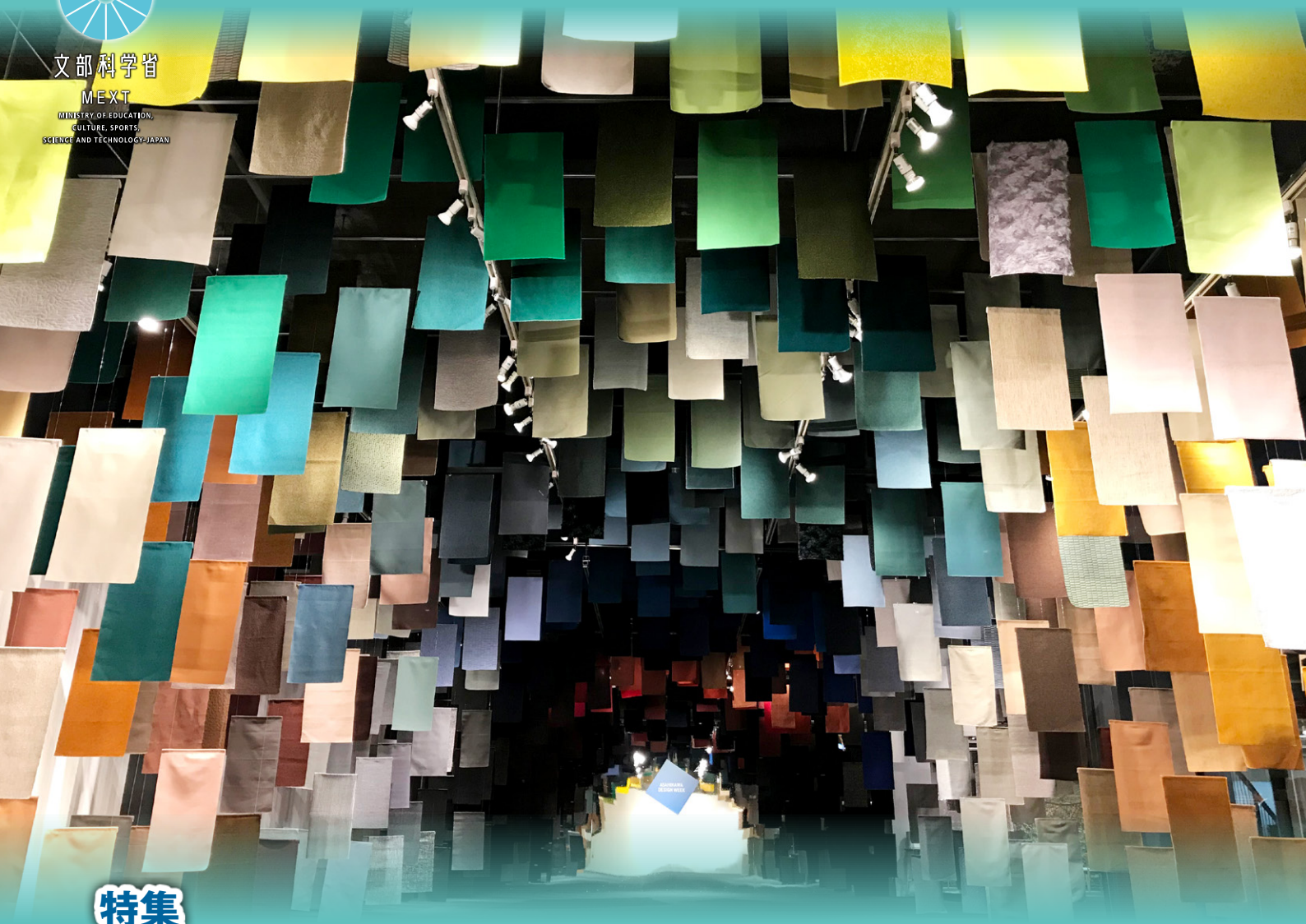
The Monthly Journal of MEXT

DECEMBER 2019 12
No.241

文部科学広報

文部科学省 編集

文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



特集

ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワーク（ユネスコ創造都市ネットワーク）
～「創造性」を核とした国際的都市間ネットワーク～

◆ MONTHLY LINE UP

スーパーコンピュータ「富岳」のプロトタイプがGreen500で1位を獲得 ～世界トップの省エネ性能を実証～ / 令和元年度 文化功労者・文化勲章受章者 / 史跡等の指定・登録について / 地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況について / 令和元年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

The Monthly Journal of MEXT
文部科学広報 2019年 12月号／No.241

特集

ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワーク（ユネスコ創造都市ネットワーク）
～「創造性」を核とした国際的都市間ネットワーク～ …… 1

文部科学省国際統括官付

ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワーク（ユネスコ創造都市ネットワーク）とは …… 1

我が国のユネスコ・クリエイティブシティーズ …… 2

国内加盟都市の活動 …… 2

最近の動向と関連する取組 …… 6

おわりに …… 7

文部科学省 FLASH

スーパーコンピュータ「富岳」のプロトタイプがGreen500で1位を獲得
～世界トップの省エネ性能を実証～ …… 8

令和元年度 文化功労者・文化勲章受章者 …… 10

史跡等の指定・登録について …… 14

地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況について …… 23

令和元年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰 …… 25

特集

ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワーク（ユネスコ創造都市ネットワーク）

～「創造性」を核とした国際的都市間ネットワーク～

文部科学省国際統括官付

2019年10月30日（フランス現地時間／日本時間で10月31日未明）、北海道旭川市が「ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワーク（ユネスコ創造都市ネットワーク）」にデザイン分野において加盟を認定されたとの発表がユネスコからありました。本号においては、本事業の概要、旭川市を含めた国内加盟各都市の取組等について紹介します。

ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワーク（ユネスコ創造都市ネットワーク）とは

ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワーク（ユネスコ創造都市ネットワーク）は、２００４年10月に創設されたユネスコの事業です。創造性（creativity）を核とした都市間の国際的な連携によって、地域の創造産業の発展を図り、都市の持続可能な開発を目指すものです。加盟各都市は同ネットワークを活用して、知識・経験の交流、人材育成、プログラム協力などを行っています。

本事業には、文学、映画、音楽、クラフト＆フォークアート、デザイン、メディアアート、食文化の７分野があり、各都市はいずれかの分野を選んで、ネットワークに加盟することになります。

ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワークを巡るこれまでの経緯

産業構造の変化により地方都市の活性化が課題となる中、欧州などでは、文化芸術の持つ創造性を生かした産業振興や地域活性化の取組が、行政、芸術家や文化団体、企業、大学、住民などの連携のもとに進められてきました。こういった取組は「クリエイティブ・シティ」として国内外で注目されるようになりました。

例えば、イギリスでは、中小の文化産業を積極的に振興した結果、地域経済の成長や文化多様性への市民の理解の進展が見られ、文化作業に更なるインセンティブを与える好循環が見られるようになりました。

この「クリエイティブ・シティ」は、ユネスコの文化多様性の目標を促進するものとして、２００４年秋に開催された第１７０回執行委員会による決定により、ユネスコの事業として採用されました。

イギリスのエジンバラを皮切りに広がった、ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワークの構成都市は、現在、83か国、２４６都市を数え、世界的な都市ネットワークを形成しています。

ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワーク
©UNESCO
https://en.unesco.org/creative-cities/creative-cities-map

ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワークの目的

この事業の下で、ユネスコは、経済的、社会的、文化的、そして環境的な観点から、創造性を持続可能な開発のための戦略的要素として位置づけた都市との協力を強化し、さらにこうした都市間の協力を促進することを目指しています。

ユネスコはこの事業のミッションステートメントの中で、以下のような使命・目的を掲げています。

特集 ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワーク（ユネスコ創造都市ネットワーク）～「創造性」を核とした国際的都市間ネットワーク～

●「UNESCO Creative Cities Network -Mission Statement」（ユネスコ作成）（抄）

使命

①経済、社会、文化、環境の観点から、創造性を都市の持続可能な開発の戦略的要素と位置付ける都市間の連携・協力を強化すること。

②本ネットワーク加盟により、加盟都市が以下の点について取組を進めること。

- 優良事例の共有
- 創造性と文化関連産業の成長を促すパートナーシップの発展
- 人々の文化的生活の向上
- 都市開発計画における文化の統合

目的

①創造性を都市の持続可能な開発の戦略的要素と位置付ける都市間の国際連携・協力を強化すること。

②公的セクター、民間セクター、市民社会を巻き込んだパートナーシップを通じて、創造性を核とした都市の発展を図る加盟都市の取組を支援すること。

③文化的な活動・商品・サービスの創作、生産、普及を強化すること。

④創造と革新のハブ機能を発展させ、文化分野のクリエイターや専門家のための機会を拡大すること。

⑤特に弱い立場にある集団や個人が、文化的な商品やサービスを享受し、文化的活動に参加できるよう改善を図ること。

⑥文化と創造性を、地域の開発戦略・計画に完全に統合すること。

我が国のユネスコ・クリエイティブシティーズ

冒頭に紹介した旭川市の加盟認定により、我が国では、神戸市、名古屋市、金沢市、札幌市、鶴岡市、浜松市、丹波篠山市、山形市を含む、計9都市が加盟都市となりました。国内加盟都市の分野と加盟年は左のとおりです。

ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワークの国内加盟都市

都市名	分　野	加盟年
神戸市	デザイン	2008
名古屋市	デザイン	2008
金沢市	クラフト＆フォークアート	2009
札幌市	メディアアート	2013
鶴岡市	食文化	2014
浜松市	音楽	2014
丹波篠山（ささやま）市	クラフト＆フォークアート	2015
山形市	映画	2017
旭川市	デザイン	2019

これまでに加盟した各都市はユネスコの定めた目的・使命に従い特色ある活動を行うほか、国内外におけるパートナーシップの発展にも熱心に取り組んでいます。

2018年10月には名古屋市で「第1回ユネスコ創造都市ネットワーク国内都市ミーティング」が開催され、国内の加盟都市が初めて一堂に会して、加盟都市間の成果や課題の共有、新たな連携の検討等を行いました。また、2019年10月に金沢市はクラフト＆フォークアート分野のユネスコ創造都市ネットワーク分野別会議を開催し、同分野でネットワークに加盟している7か国9都市が金沢に集まりました。会議では各都市が抱える課題等について議論を交わし、この分野の都市間における新たなプログラムの提案がなされるなど、有意義な機会となりました。

国内都市ミーティング後のトークイベント（名古屋城本丸御殿）

分野別会議の様子（金沢市）

国内加盟都市の活動

今年加盟が認められた北海道旭川市を始め、ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワークに加盟する国内各都市の活動を、分野ごとに紹介します。

デザイン

（1）北海道旭川市（2019年加盟）

旭川市は、1976年の旭川デザインシンポジウムを発端に、1987と1988年には、海外からデザイナーを招へいし国際デザインフォーラム旭川を開催するなど、先進的な海外のデザイン思想を地域に取り入れるための活動を続けてきました。

1990年からは3年に1度、国際家具デザインフェア旭川（IFDA）を継続開催し、デザイナーとの国際交流や新しい家具デザインの発掘を通して、技術力、デザイン力に磨きをかけるとともに、2015年からは、市民にデザインを啓発する取組として旭川デザインウィークを毎年開催しています。2017年6月には、当市のこれまでのデザインに対する取組などが評価され、国際インテリアアーキテクト／デザイナー団体連合（IFI）と「IFIインテリア宣言」を行いました。

デザインの視点で旭川の資源や魅力を見つめなおし、豊かで潤いのある暮らしを目指すとともに、想像力豊かな人材育成や地場産業の新たな活力の創出に繋がる取組を進めています。

今後、デザイン創造都市として、デザインイベントを継続開催するとともに、人材の育成を図り、旭川の多彩な食、文化や自然など豊富な資源を横断的に結びつけ総合的に活用しながら、ネットワーク加盟都市との交流を通じて、世界に向けて情報発信し、地域の活性化はもとより、国連の掲げる持続可能な開発目標（SDGs）にも寄与していくことを目指しています。

（北海道旭川市経済部産業振興課）

国際家具デザインフェア旭川2017 ©旭川家具工業協同組合

ASAHIKAWA DESIGN WEEK 2018 ©旭川家具工業協同組合

（2）愛知県名古屋市（2008年加盟）

名古屋市は、1989年の「デザイン都市宣言」以降、地元の産業界、デザイン団体、教育機関との協働により、世界3大デザイン会議・世界デザイン博覧会の開催や国際デザインセンターの設立、市民・企業のデザイン意識の普及啓発、若手デザイナーの育成など、デザインを核とした市政運営に取り組んできました。2019年は30年間の活動を振り返りながら、築城から400年にわたって脈々と受け継がれてきた文化のDNAを現代に生かし、未来につなぐクリエイティブ・カフェを開催しています。

（愛知県名古屋市観光文化交流局文化振興室）

2019年クリエイティブ・カフェ Vol.9

2019年大学交流WS（モントリオール大学・愛知県立芸術大学）

（3）兵庫県神戸市（2008年加盟）

神戸市では、「住み続けたくなるまち、訪れたくなるまち、そして、継続的に発展するまち」を目指して、デザインの視点から暮らしの豊かさを創造する「デザイン都市・神戸」を推進しています。

市民向けのデザインの発信拠点として、生糸検査場所を改修したデザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）があり、様々な企画を実施しています。11月には、市民に最新のデザインをより知っていただくために、2019年度のグッドデザイン賞受賞作品を集めた「グッドデザイン神戸展」をKIITOで開催しました。

地元の企業向けには、地元のクリエイターとともに経営や商品開発にデザインの視点を取り入れるプログラムを実施しています。

さらに、神戸市では全国でも珍しく、クリエイティブディレクターがおり、デザイナーが職員として働いています。職員にデザイン思考を伝えるとともに、神戸市の課題をデザインの力で解決していく

KIITOの外観　photo©Shunsuke Ito

グッドデザイン神戸展の様子　photo©Junpei Iwamoto

取組を進めています。

（兵庫県神戸市企画調整局産学連携課ラボ）

クラフト＆フォークアート

（1）石川県金沢市（2009年加盟）

金沢市はクラフト分野で認定された創造都市として、①文化のビジネス化、②人材の育成、③世界への発信という三つの将来像を掲げ、事業を展開しています。2015年には国内で初めて、ユネスコ創造都市ネットワーク会議を開催し、今後の創造都市交流の在り方として市長が提言した「東アジア（エリア内）での交流強化」と「異分野との連携」という二つの方向性に基づき様々な交流が始まりました。2019年11月には市制130周年記念事業の一環としてリニューアルオープンした金沢卯辰山工芸工房でのアーチスト・イン・レジデンスの第1号として、2015年の会議を契機に交流が始まった中国・景徳鎮市（クラフト分野）から陶芸作家を招き、金沢の工芸や文化に触れながら作品の滞在制作を実施しました。

（石川県金沢市都市政策局企画調整課）

上絵付作業の様子（金沢市）

市長への成果報告―完成作品が寄贈されました（金沢市）

（2）兵庫県丹波篠山市（2015年加盟）

丹波篠山市は丹波焼やデカンショ節などの地域固有の文化的特徴を有し、小規模都市ならではの特徴を生かした「創造都市モデル」を他国に提示し、ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市や途上国の小都市と共有し、学び合う国際的連携事業を推進しています。2019年には、日本遺産創造都市のまちづくり推進事業を実施しました。これは、市民が自ら、丹波篠山の創造的な文化を保存、活用、体験し、継承するためのもので、多数の市民が参加しました。

また、中国の蘇州や韓国晋州で開催されたフォーラムへ参加したほか、タイのチェンマイからの訪問など、世界各国に点在する創造都市との交流も深めました。このように、創造農村丹波篠山は、ローカルの魅力を高めつつ、グローバルな交流と発信を進めて、世界に向けて持続可能な農村の在り方を呈しています。

（兵庫県丹波篠山市農都創造部商工観光課）

ユネスコ創造都市ネットワーク総会に市長登壇
（イタリア　ファブリアーノ）

創造農村推進事業（伝統文化の継承）

メディアアート分野

（1）北海道札幌市（2013年加盟）

札幌市は2006年3月の創造都市さっぽろ宣言以降、創造性を中核にまちづくりを進め、2013年11月に、デジタル技術などを用いた新しい文化・創造産業の発展を目指すメディアアート都市の認定を受けました。国際連携とともに、メディアアートを生かしたイベントの魅力向上に取り組み、さっぽろ雪まつりでのプロジェクションマッピングは、観光の目玉となっています。2020年12月には、3回目となる「札幌国際芸術祭2020」が開幕。冬の札幌の魅力を再発見するような芸術祭を開催します。

（北海道札幌市市民文化局文化部文化振興課）

第68回さっぽろ雪まつり×札幌国際芸術祭2017
「トット商店街」（撮影：秋田 英貴）

さっぽろ天神山アートスタジオ招へいプログラム
参加アーチストとの交流会

食文化

（1）山形県鶴岡市（2014年加盟）

鶴岡市は出羽三山・朝日山地から庄内平野、日本海へと至る変化に富んだ地形の中で、海の幸・山の幸に恵まれた豊かな食文化を有し、先人たちの知恵と情熱によって独自の食文化を今に伝えています。その基盤を生かしながら、食関連産業の振興や交流人口の拡大、食文化の保存継承を進めること等を目的とした「鶴岡市食文化創造都市推進プラン」を策定し、食文化による地域づくりを推進しています。2019年には、鶴岡市を中心に6都市の共同発起で「豊かな食の郷土づくり研究会」を立ち上げ、全国89の会員自治体等による食文化を活用した地域活性化に向けた連携がスタートしました。創造都市間の交流では、中国・成都やタイ・プーケットからの招へいで、市内料理人がクッキングショーに参加し、海外料理人との交流・相互学習を通して創造性・発想力の向上と技術の研鑽（けんさん）・習得を図っています。料理人は、魅力ある料理を提供することで、農林水産業などの生産者と消費者を繋ぎ、地域の食材や食文化を伝える人材であることから、海外との交流のほか、各種講座の開催、2020年2月に開催の料理人コンペティション等を通して料理人の育成を図り、地域の持続可能な産業振興に繋げていくこととしています。

（山形県鶴岡市企画部食文化創造都市推進課）

郷土料理を伝承する市民向け講座

中国・成都で鶴岡の料理を披露

音楽

（1）静岡県浜松市（2014年加盟）

浜松市には浜松国際ピアノコンクールや世界青少年音楽祭等の国際的催し物の開催だけにとどまらず、楽器関連産業の集積、市民による活発な音楽活動の実績があります。また、数百年を超えて地域に脈々と伝わる伝統文化、伝統芸能も見逃すことはできません。これらの実績を基に2007年に「市民協働で築く『市民協働で築く未来へかがやく創造都市・浜松』」を市の将来像に位置付けました。ユネスコ創造都市ネットワーク加盟後は、従来から力を入れてきた文化振興事業に加え、音を活用した地域の課題解決や新たな産業の振興を目指した取り組みを進めており、2019年には音・音楽の新たな楽しみ方を体感できるイベント「サウンドデザインファクトリーin浜松2019」を開催しました。

（静岡県浜松市市民部創造都市・文化振興課）

第10回浜松国際ピアノコンクール（2018年）
ⓒ浜松国際ピアノコンクール

サウンドデザインファクトリーin浜松2019

映画

（1）山形県山形市（2017年加盟）

山形市は、30年の歴史を持ち国際的にも評価の高い「山形国際ドキュメンタリー映画祭」をはじめ、教育機関やフィルムコミッションの活動、人口当たりの映画スクリーン数が全国トップクラスなど、映像環境が充実しています。2019年は、映画都

やまがたアーチスト・イン・レジデンス（映画撮影）

山形国際ドキュメンタリー映画祭2019表彰式

市の釜山市と連携したアーチスト・イン・レジデンス事業、日本映画界の第一線で活躍する監督や俳優を招聘した「やまがた創造都市国際会議」などをはじめとした事業を行いましたが、その根底にあるのは、映画を基軸に置きながら、地域の多彩な文化や地域資産と有機的に結び付けたまちづくりです。

（山形県山形市企画調整部文化振興課）

最近の動向と関連する取組

「ユネスコ活動の活性化について（建議）」とユネスコ・クリエイティブシティーズネットワーク

今年10月18日、日本ユネスコ国内委員会では「ユネスコ活動の活性化について」と題した建議をまとめました。この建議は、グローバル化や技術革新が急速に進展する国際社会において、SDGsに向けた取組が進む中、課題解決先進国としての我が国が、ユネスコ活動において積極的な役割を果たしていくことが求められていることを踏まえ、日本ユネスコ国内委員会の発意により文部科学大臣及び外務大臣へ提出したものです。

この建議では、ユネスコの各種登録事業と並んで、創造都市ネットワーク（ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワーク）について、以下のように提言されています。

●「ユネスコ活動の活性化について（建議）」（令和元年10月18日日本ユネスコ国内委員会）（抄）

4. ユネスコ活動のメリットを生かした地域創生や多文化共生社会の構築

ユネスコが登録・認定を行う世界遺産、無形文化遺産、生物圏保存地域（エコパーク）、世界ジオパーク、創造都市ネットワーク等については、多様な文化が地域創生の資源となるよう、持続可能な地域づくりという観点から教育や観光等に積極的に活用することを後押しし、好事例の展開を図ること。

また、同日取りまとめられた「2020-2021年のユネスコ活動に関する方針（答申）」においても、以下のように言及されています。

●「2020-2021年のユネスコ活動に関する方針（答申）」（令和元年10月18日日本ユネスコ国内委員会）（抄）

⑷文化分野

③ユネスコ活動の基盤強化

創造産業の振興を図る上で、ユネスコ創造都市ネットワークへ加盟している都市間の交流やその他地域との連携も重要である。

これらの内容を踏まえて、各加盟都市におかれては、創造性を都市の持続可能な開発の戦略的要素と位置付け、特色ある持続可能なまちづくりを進めるのみならず、国内外の加盟都市との連携・協働の更なる促進に努めていただきたいと思います。

ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワークへの加盟申請

ユネスコ・クリエイティブシティーズネットワークに加盟するには、日本ユネスコ国内委員会の推薦を受けた上で、ユネスコが実施する公募に応募する必要があります。ユネスコからの公募は現在、2年に1回行われることとなっており、次回公募は2021年となる見込みです。なお、ユネスコの定める申請要件に基づき、原則として単一の基礎自治体による応募が必要です。

日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコからの公募を受けて、我が国からユネスコへ推薦する申請案件を公募します。1か国あたりの推薦数及び加盟都市についてはユネスコが上限を定めており、2019年度公募の際には、1か国あたり最大4都市まで推薦することができ、別分野で最大2都市まで加盟対象となることが定められていました。

参考までに、今年度旭川市が採択された際の公募スケジュールを紹介します。

①ユネスコによる公募開始　4月3日

②日本ユネスコ国内委員会による公募締切　5月8日

③日本ユネスコ国内委員会によるユネスコへの推薦都市の決定　5月31日

④ユネスコへの申請書類提出期限　6月30日

⑤ユネスコによる審査結果発表　10月30日（フランス時間）

日本ユネスコ国内委員会による推薦都市の審査

においては、申請内容がユネスコ・クリエイティブシティーズネットワークの使命と目的を理解した上で、それらと整合性があり、かつ本ネットワークに貢献しうるものであることを基本として、さらに、文化と創造性を核とした我が国の都市全体の発展の観点から、日本ユネスコ国内委員会の推薦にふさわしい申請であるか、という点に留意することとしています。例えば、分野（ネットワークの七つの分野）のバランス、地理的なバランス、後述する「創造都市ネットワーク日本」など国内の他都市との連携状況等が考慮されます。また、ユネスコが加盟審査において重視する、申請の動機、加盟が申請都市にもたらす効果、公的セクター、民間セクター、地域の関係者等多様なアクターの参画等についても確認することとしています。

文化芸術創造都市・創造都市ネットワーク日本

「クリエイティブ・シティ」が国内外で注目される中、我が国独自の取組として、文化庁において、文化芸術の持つ創造性を産業振興、地域振興等に領域横断的に活用し、地域課題の解決に取り組む地方自治体を「文化芸術創造都市」と位置付け、国内ネットワークやモデルの構築を通じ支援しています。

また、創造都市の取組を推進する（又は推進しようとする）地方自治体等、多様な主体を支援するとともに、国内及び世界の創造都市間の連携・交流を促進するためのプラットフォームとして、我が国における創造都市の普及・発展を図ることを目的として、２０１５年に「創造都市ネットワーク日本（ＣＣＮＪ）」が設立され、令和元年12月16日現在１１３の自治体のほか、多くのＮＰＯ等が参加して、ネットワーク会議、セミナー及び研修等の事業を実施しています。

平成31年１月 創造都市ネットワーク会議（CCNJ総会）の様子（浜松市）

東アジア文化都市

ユネスコの全世界的な都市ネットワークのほか、東アジア地域においても、各都市がその文化的特徴を生かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として継続的に発展することを目的として「東アジア文化都市」が選定されています。これは日中韓文化大臣会合における日本の提案に基づき、２０１４年から実施されているもので、各都市は国内外の文化都市・創造都市等のネットワーク形成に積極的に参画し、当該都市等との交流を積極的に行っています。２０１９年に韓国仁川広域市で開催された同会合では、東アジア文化都市間の青少年交流等の推進、ＡＳＥＡＮ文化都市や欧州文化首都との交流促進などについて合意しました。なお、２０２０年の東アジア文化都市として、日本は北九州市、中国は揚州（ヤンチョウ）市、韓国は順天市に決定しました。

おわりに

現在、各地域の特色を資源として生かしつつ地方創生を図っていくことが喫緊の課題となっています。地域資源を活用した地方創生を図るために、地域の特色ある自然や文化と人間社会との共生を図る活動を活性化させ、それらを持続可能な方法で教育や観光等に活用していくことが必要であり、今回紹介した各都市の活動が参考になれば幸いです。

スーパーコンピュータ「富岳」のプロトタイプがGreen500で1位を獲得 ～世界トップの省エネ性能を実証～

文部科学省研究振興局参事官（情報担当）付計算科学技術推進室

平成26年度よりスーパーコンピュータ「京」の後継機として開発を実施してきた、スーパーコンピュータ「富岳」のプロトタイプ（試作機）が、スーパーコンピュータの消費電力性能を示すランキングであるGreen500において、世界1位を獲得しました。

スーパーコンピュータ等の情報基盤技術は、全ての人とモノがつながり、今までにない新たな価値を生み出す超スマート社会の実現を目指すSociety 5.0において、シミュレーションによる社会的課題の解決や人工知能開発、情報の流通・処理に関する技術開発を加速するために、必要不可欠な技術です。また、ビッグデータ解析やＡＩといった大規模データを用いた科学的手法（データ科学）は理論、実験・観測、シミュレーションに次ぐ「第４の科学」と呼ばれ、近年ではデータ科学と計算科学（シミュレーション）との融合・連携が注目されています。

「富岳」で期待される成果例

文部科学省では、今年８月で運用終了したスーパーコンピュータ「京」の後継機であるスーパーコンピュータ「富岳」の開発を、令和３年度の運用開始を目指し推進しています。「富岳」は「京」の最大１００倍のアプリケーション実効性能、世界最高水準の汎用性そして高い電力効率を目標に開発されており、防災・減災、創薬の他、人工知能やデータ科学等様々な分野での活用を想定しています。例えば、「京」よりも大規模かつ高精度なシミュレーションにより、薬剤候補物質の生体内での反応をより詳細に解明することで、効果的・効率的な創薬を実現することや、複数の地震を想定した災害予測、都市全体の複合災害の予測などによる、合理的な防災計画の立案への貢献などが期待されています。

今回、「富岳」のプロトタイプ（試作機）が、米国で開催されたハイ・パフォーマンス・コンピューティング（ＨＰＣ）に関する国際学会・展示会である「ＳＣ19」において、スーパーコンピュータの消費電力性能を示すランキング（Green500）において、世界1位を獲得しました。Green500は、少ない消費電力で効率的に計算できた順にスーパーコンピュータをランク付けしたものです。

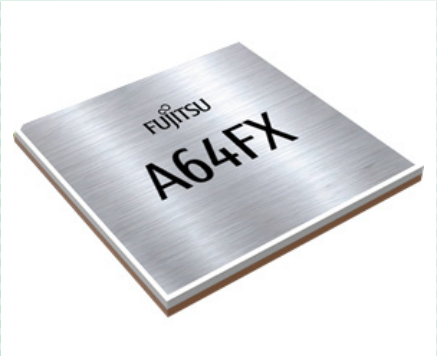
Green500で世界1位を獲得した試作機は、「富岳」の開発企業である富士通株式会社（以下、「富士通」）が製造し、沼津工場（所在地：静岡県沼津市）に設置したものです。本システムは、「富岳」に使用する予定の富士通が開発したＣＰＵ（中央処理装置）「Ａ64ＦＸ」を７６８個搭載しています。

Green500授賞式の様子（「富岳」共同開発の富士通と理研が登壇）

「富岳」プロトタイプの性能は、消費電力1ワットあたりの性能で16・８７６ギガ回の計算性能を達成し、「富岳」の開発技術が世界トップの消費電力性能を有することを実証しました（1ギガは10の9乗）。

今回の受賞を通じ、現在製造中である「富岳」でも高レベルの省エネ性能が達成されることが期待されています。

文部科学省としては、「富岳」がSociety 5.0を支える重要な研究基盤であり、日本の高い技術力のシンボルとして、国内の大学や産業界などに広く利活用されるとともに、国際的にもその成果が発信されることを期待して、「富岳」の製造を着実に行うとともに、成果を早期に創出できるよう、取り組んでまいります。



CPU「A64FX」のイメージ図

令和元年度 文化功労者・文化勲章受章者

文部科学省大臣官房人事課

令和元年度文化功労者

令和元年度文化功労者顕彰式が11月5日、東京都港区虎ノ門のオークラ東京にて行われました。文化功労者は次の21名の方々です。

◆**飯利　忠男**（いいり　ただお）〈筆名　佐藤　忠男（さとう　ただお）〉日本映画大学名誉学長《映画評論》

長年にわたり、評論家として、映画をはじめ大衆芸能、演劇など幅広い分野で評論活動を展開し、平明な表現での鋭い問題提起、弱者への温かい視線、学究的で真摯な姿勢に貫かれた評論は高く評価されるとともに、映画の国際交流や、未来の映画人の育成にも尽力し、さらに、関連する団体の要職を務めるなど、斯界の発展に多大な貢献をされました。

◆**石井　幹子**（いしい　もとこ）《照明デザイン》

長年にわたり、照明デザイナーとして、都市照明から建築照明、光のパフォーマンスまで幅広い照明の世界を開拓するとともに、都市・地方の文化創造や国際交流などにも大きな役割を果たし、さらに、関連する団体の要職を務めるなど、斯界の発展に多大な貢献をされました。

◆**猪木　武徳**（いのき　たけのり）大阪大学名誉教授、人間文化研究機構国際日本文化研究センター名誉教授《経済学》

経済学の分野において、統計データ・歴史資料を重視した実証的アプローチと古典解釈の上に成り立つ思想的アプローチを融合させた、我が国で唯一とも言える独創的な研究手法により、卓越した業績を上げ、斯学の発展に多大な貢献をされました。

顕彰者を代表し挨拶される岩田暁子（筆名 馬場あき子）さん

◆**岩田　暁子**（いわた　あきこ）〈筆名　馬場　あき子（ばば　あきこ）〉日本芸術院会員《短歌》

長年にわたり、歌人として、常に第一線で優れた短歌の創作と評論の執筆に勤しむとともに、自ら歌誌を創刊し数多くの歌人を育成し、さらに、関連する団体の要職を務めるなど、斯界の発展に多大な貢献をされました。

◆**宇多　喜代子**（うだ　きよこ）日本芸術院会員《俳句》

長年にわたり、俳人として、他の追随を許さない優れた作品を数多く世に送り出し、実作的な目標となるとともに、俳壇の重鎮として新聞・雑誌の俳句欄及び各賞の選者を務め、さらに、関連する団体の要職を務めるなど、斯界の発展に多大な貢献をされました。

◆**大林　宣彦**（おおばやし　のぶひこ）《映画》

長年にわたり、映画監督として、映画ならではの夢や遊び心溢れる実験精神に満ちた作品を創作し続け、日本映画界に新局面をもたすとともに、後進の自主映画出身若手監督や地域における映画製作の道筋を開くなど、斯界の発展に多大な貢献をされました。

◆**金出　武雄**（かなで　たけお）カーネギーメロン大学ワイタカー記念全学教授《コンピュータビジョン・

ロボット工学》

コンピュータビジョンとロボット工学の分野において、顔に関する画像認識技術や自動車の自動運転における先駆的な取組をはじめとする数々の国際的に独創的な研究業績を上げるなど、斯学の発展に多大な貢献をされました。

◆**興膳　宏**（こうぜん　ひろし）**日本学士院会員・京都大学名誉教授《中国古典文学》**

中国古典文学の分野において、唐代以前の文学理論研究に従事し、緻密な分析から総体的な論へと明晰な論述を展開する研究を行い、我が国のみならず国際的にも高い評価を受ける卓越した業績を上げるなど、斯学の発展に多大な貢献をされました。

◆**小林　芳規**（こばやし　よしのり）**広島大学名誉教授《国語史学・国際交流》**

国語史学の分野において、「漢文訓読史の研究」、「鎌倉時代語の研究」及び「角筆文献の発見とその研究」という、未開拓であった三分野を新たに開きそれぞれを確立するという卓越した業績を上げるとともに、研究を通して培った角筆の判読技術を中国・韓国などの研究者・研究機関に提供し、学術の国際交流にも大きく寄与するなど、斯学の発展に多大な貢献をされました。

◆**近藤　孝男**（こんどう　たかお）**名古屋大学名誉教授《時間生物学》**

時間生物学の分野において、シアノバクテリアをモデルとして、時計機能を司る三種類のKaiタンパク質を発見するとともに、それらによって24時間の安定的な生物リズムを再現することに成功し、生物時計の特性がタンパク質の機能に基づいていることを明らかにする卓越した業績を上げ、斯学の発展に多大な貢献をされました。

◆**笹川　陽平**（ささかわ　ようへい）**（公財）日本財団会長《社会貢献・国際貢献・文化振興》**

長年にわたり、（公財）日本財団の常勤役員として様々な公益事業に対する支援を行ってきた経験を生かし、行政の手の届かない文化振興・社会貢献事業に取り組み、多大な功績を上げるとともに、国際社会において各国政府が取り組むことに困難な社会課題の解決について、先駆的な発想と行動力により多大な貢献をされました。

◆**佐々木　卓治**（ささき　たくじ）**東京農業大学総合研究所参与《作物ゲノム学・学術振興》**

作物ゲノム学の分野において、国際イネゲノム塩基配列解読プロジェクトをリーダーとして率い、世界に先駆けてイネゲノム全塩基配列を解読し、作物ゲノム育種を大きく進展させる卓越した業績を上げるとともに、学術の振興にも尽力し、斯学の発展に多大な貢献をされました。

◆**田渕　俊夫**（たぶち　としお）**（公財）日本美術院理事長、東京藝術大学名誉教授《日本画》**

長年にわたり、日本画家として、装飾性と精神性を兼ね備えた作品を数多く世に送り出し、日本画の確たる表現を築いたものとして高く評価されるとともに、後進の育成や文化財保存に尽力し、さらに、関連する団体の要職を務めるなど、斯界の発展に多大な貢献をされました。

◆**徳村　正吉**（とくむら　まさきち）**〈芸名　宮城　能鳳（みやぎ　のうほう）〉琉球舞踊保存会会長、重要無形文化財「組踊立方」（各個認定）保持者《組踊》**

長年にわたり、舞踊家として、端麗かつ繊細さの中に強靭さを秘めた芸風が高く評価されるとともに、組踊並びに琉球舞踊における女方の卓抜した技芸をもって後進の指導に当たり、多くの優秀な後継者を輩出し、さらに、関連する団体の要職を務めるなど、斯界の発展に多大な貢献をされました。

◆**萩尾　望都**（はぎお　もと）**《漫画》**

長年にわたり、漫画家として、数多くの優れた少女漫画作品を世に送り出し、少女漫画を多彩で深みのある内容表表現の可能な世界的にも注目される重要なジャンルへと発展させるとともに、後進の育成にも尽力し、斯界の発展に多大な貢献をされました。

顕彰状授与の様子

◆**藤原　進一郎**（ふじわら　しんいちろう）元（財）日本障害者スポーツ協会理事《障害者スポーツ振興》

長年にわたり、障害者スポーツ分野の第一人者として、障害者スポーツを近代スポーツとして発展させる基礎作りに大きな役割を果たすとともに、数多くのパラリンピック競技大会で日本代表選手団監督や団長を歴任し、日本代表選手の活躍のために尽力するなど、斯界の発展に多大な貢献をされました。

◆**宮本　茂**（みやもと　しげる）任天堂（株）代表取締役フェロー《メディア芸術（ゲーム）》

長年にわたり、ゲームプロデューサーとして、「スーパーマリオブラザーズ」や「ゼルダの伝説」などの、世界的に評価される作品を数多く世に送り出し、「現代のビデオゲームの父」とも称され、ゲームを我が国の文化として世界に誇れるまでのものにするなど、斯界の発展に多大な貢献をされました。

◆**守田　伸一**（もりた　しんいち）〈芸名　坂東　玉三郎（ばんどう　たまさぶろう）〉重要無形文化財「歌舞伎女方」（各個認定）保持者《歌舞伎》

長年にわたり、歌舞伎俳優として、数多くの舞台を踏み、比類ない高度な表現力を有する演技で高い評価を受けるとともに、歌舞伎にとどまらず新派や新劇、海外戯曲への出演も行い、さらに、関連する団体の要職を務めるなど、斯界の発展に多大な貢献をされました。

◆**柳沢　正史**（やなぎさわ　まさし）筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構長・教授、テキサス大学サウスウエスタン医学センター教授《分子薬理学》

分子薬理学の分野において、強力な血管収縮作用を有する生理活性物質「エンドセリン」と睡眠／覚醒を制御している神経伝達物質「オレキシン」を発見し、その作用機構を解明するとともに、人の疾患との関わりを明らかにし、革新的な医薬品開発に結び付ける卓越した業績を上げ、斯学の発展に多大な貢献をされました。

◆**吉野　彰**（よしの　あきら）旭化成（株）名誉フェロー、名城大学大学院理工学研究科教授《電気化学》

電気化学の分野において、モバイル機器や電気自動車などに欠かせない小型・軽量で高出力の充電式電池であるリチウムイオン電池の基本構造を確立する卓越した業績を上げ、経済、社会の発展に極めて顕著な貢献をされました。

◆**渡邊　美佐**（わたなべ　みさ）（株）渡辺プロダクション名誉会長、（一社）日本音楽出版社協会名誉顧問《文化振興・国際交流・著作権》

長年にわたり、音楽プロデューサーとして、数多くのアーティストを世に送り出すとともに、芸能・音楽エンタテインメント業界を支えるマネジメント人材の育成及び著作権保護制度の充実などにも尽力し、さらに、関連する団体の要職を務めるなど、斯界の発展に多大な貢献をされました。

令和元年度文化勲章受章者

令和元年度文化勲章受章者6名が11月3日に発令され、同日親授式が皇居にて行われました。文化勲章受章者は次の方々です。

◆**甘利　俊一**（あまり　しゅんいち）文化功労者、東京大学名誉教授、国立研究開発法人理化学研究所栄誉研究員《数理工学》

数理工学の分野において、脳の情報処理の背後にある基本原理を数理情報学的手法により体系化するというユニークな方法により先駆的かつ独創的な研究を行い、卓越した業績を上げるとともに、自身の研究及び後進の育成を通し、数理工学という分野の開拓と確立に大きな役割を果たすなど、斯学の発展に極めて顕著な貢献をされました。

◆**坂口　志文**（さかぐち　しもん）文化功労者、大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授、大阪大学栄誉教授、京都大学名誉教授《免疫学》

免疫学の分野において、過剰な免疫反応を抑制する自己免疫寛容を司る制御性T細胞を発見し、その発生・機能を細胞・分子レベルで明らかにするとともに、様々な自己免疫病、アレルギー、癌免疫、移植免疫などにおける制御性T細胞の役割を解明し、斯学の発展に極めて顕著な貢献をされました。

◆**佐々木　毅**（ささき　たけし）文化功労者、日本学士院会員、東京大学名誉教授《政治学》

政治学の分野において、古代ギリシアから近代ヨーロッパに及ぶ多くの重要な政治思想家について

の研究に卓越した業績を上げるとともに、その政治思想研究を基盤として現代政治の分析においても優れた研究業績を上げるなど、斯学の発展に極めて顕著な貢献をされました。

◆田沼　武能（たぬま　たけよし）**文化功労者、東京工芸大学名誉教授《写真》**

長年にわたり、写真家として、数多くの芸術写真を世に送り出しながら、「子どもたちの写真」という新たな分野を開拓・確立するとともに、後進の育成や写真家の地位向上に尽力し、さらに、関連する団体の要職を務めるなど、斯界の発展に極めて顕著な貢献をされました。

◆野村　太良（のむら　たろう）**〈芸名　野村　萬（のむら　まん）〉文化功労者、日本芸術院会員、重要無形文化財「狂言」（各個認定）保持者《狂言》**

長年にわたり、能楽師として、演目・役柄を問わず、無駄のない所作と内面から表出する喜怒哀楽の演技で登場人物の深い人間性を表現し、狂言の魅力を伝え、多くの人々に感銘を与えるとともに、関連する団体の要職も務めるなど、斯界の発展に極めて顕著な貢献をされました。

◆吉野　彰（よしの　あきら）**文化功労者、旭化成（株）名誉フェロー、名城大学大学院理工学研究科教授《電気化学》**

電気化学の分野において、モバイル機器や電気自動車などに欠かせない小型・軽量で高出力の充電式電池であるリチウムイオン電池の基本構造を確立する卓越した業績を上げ、経済、社会の発展に極めて顕著な貢献をされました。

記念撮影の様子

史跡等の指定・登録について

文化庁文化財第二課

史跡名勝天然記念物の指定等、登録記念物の登録が答申されました。

文化庁では、歴史上又は学術上価値の高い遺跡、芸術上又は鑑賞上価値の高い名勝地、学術上価値の高い動物・植物・地質鉱物のうち重要なものを、「史跡」「名勝」「天然記念物」に指定し、保存と活用を図っています。

11月16日に開かれた文化審議会文化財分科会において、特別史跡の新指定1件、史跡名勝天然記念物の新指定19件、追加指定等29件、登録記念物の新登録5件が答申されました。

この結果、官報告示後に、史跡名勝天然記念物は3299件、登録記念物は117件となる予定です。以下、新指定等の案件について、その概要を紹介します。

なお、より詳しい解説や、追加指定等については、文化庁ホームページを御覧ください。

「文化審議会の答申（史跡等の指定等）」
http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/1422552.html

特別史跡の新指定1

埼玉古墳群（さきたまこふんぐん）

埼玉県行田市

5世紀末から7世紀初頭にかけて大宮台地の先端に築かれた、前方後円墳8基、大型円墳1基及び小型円墳群からなる我が国を代表する古墳群です。墳長120mの前方後円墳である稲荷山古墳から出土した辛亥年の紀年銘を持つ金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）は、古墳時代研究に欠くことのできない資料として他の副葬品とともに国宝に指定されています。調査・整備・活用の取組を長期にわたり継続し優れた実績を上げており、我が国文化の象徴として極めて重要です。

古墳群全景（埼玉県教育委員会提供）

史跡の新指定1

小山崎遺跡（こやまざきいせき）

山形県飽海郡遊佐町

縄文時代中期末から後期を中心とする集落と、周辺の水辺環境の利用を目的とした土木構造物である水辺遺構が良好な状態で保存されている遺跡です。遺跡周辺には鳥海山麓の美しい自然景観が残されています。古環境に関する豊富な知見からは、環境の変化に応じて集落の在り方が変化していく様子を知ることができます。本州日本海沿岸北部における縄文文化を解明する上で重要です。

水辺遺構調査状況（遊佐町教育委員会提供）

史跡の新指定2
磯浜古墳群
茨城県東茨城郡大洗町

茨城県中部、那珂川・涸沼川水系の河口部に位置する古墳時代前期から中期初頭の古墳群です。前方後円墳2基、前方後方墳1基、円墳1基ほかの6基からなります。古墳群で最大の日下ヶ塚古墳は墳長101・4mの大型前方後円墳で、鏡・石製模造品・玉類など約4、000点の豊富な副葬品が出土しました。古墳群最後の車塚古墳は直径約88mで、全国屈指の規模を誇ります。古墳時代前期から中期初頭の関東における古墳の展開を考える上で重要です。

古墳群全景（大洗町教育委員会提供）

史跡の新指定3
上野国多胡郡正倉跡
群馬県高崎市

和銅4年（711）に建郡された、上野国多胡郡の田租や出挙で徴収した稲などを収納する倉庫群跡です。群馬県の中央部を流れ利根川に合流する鏑川の南側の段丘上に位置しており、世界の記憶でもある特別史跡多胡碑の真南約350mに当たります。発掘調査によれば、121㎡の大型礎石建物が検出され、瓦や炭化米、小型弓などが見つかり、正倉の創建は8世紀前半とみられます。律令国家の税の徴収や地方支配の在り方を考える上で重要です。

大型礎石建物調査状況（高崎市提供）

史跡の新指定4
神明貝塚
埼玉県春日部市

奥東京湾最北部の汽水域に形成された縄文時代後期前半の馬蹄形貝塚を伴う大型の集落遺跡で、同種の遺跡の中でも最大級の規模を誇ります。集落域と貝層のほぼ全体が良好な状態で保存されていたことで、集落構造の詳細な変化を知ることができます。また、出土した豊富な動植物遺存体と石器からは、集落を営んだ人々の生業形態とその地域性を知ることができる点で重要です。

貝層断面（春日部市教育委員会提供）

史跡の新指定5

午王山遺跡

埼玉県和光市

埼玉県東南部、荒川を望む独立丘陵上に位置する弥生時代後期の大規模な環濠集落です。150棟以上の竪穴建物と丘陵縁辺部に掘削された多重の環濠が検出されました。中期後半から後期中葉までの集落の構造の変遷が明らかとなっており、関東では少ない同時性が確認できる多重環濠のある集落遺跡であるとともに、北関東系や南関東系の複数の他地域の出土遺物が認められ、関東における弥生時代後期の地域間交流の実態を考える上で重要な集落遺跡です。

多重環濠調査状況（和光市教育委員会提供）

史跡の新指定6

光明山古墳

静岡県浜松市

5世紀中葉に天竜川東岸の丘陵先端に築かれた墳長83mの前方後円墳です。墳丘は2段築成で葺石と埴輪を持ち、特に後円部上段には基底部から墳頂まで続く葺石の区画石列が良好に残ります。それまで古墳が造られなかった内陸交通の要衝の地に突如として築かれた、当該時期においては東海地方でも屈指の規模を誇る前方後円墳であり、古墳時代中期の古墳築造の在り方の転換を明瞭に示す事例として重要です。

後円部調査状況（浜松市提供）

史跡の新指定7

永原御殿跡及び伊庭御殿跡

滋賀県野洲市・東近江市

徳川家康、秀忠、家光が上洛の際に利用した宿泊所や休憩所跡です。これら将軍の上洛は、将軍宣下や大坂冬の陣・夏の陣など幕藩制の確立期に行われました。両御殿とも中山道の脇街道である朝鮮人街道付近にあります。永原御殿跡は宿泊施設で、本丸、二の丸などからなり、本丸には堀と高さ3mの土塁が残ります。伊庭御殿跡は休憩施設で、単郭であり石垣が残っています。将軍の権威を示すために行われた上洛の実態を知る上で重要です。

永原御殿跡 本丸御亭跡検出状況（野洲市教育委員会提供）

史跡の新指定8
安宅氏城館跡（あたぎしじょうかんあと）
和歌山県西牟婁郡白浜町

列島の東西を結ぶ海上交通の結節点である紀伊半島南部を本拠とする水軍領主、安宅氏により造られた城館群です。安宅氏の本拠である安宅氏居館跡、その詰城である八幡山城跡をはじめとする五つの城跡からなります。豊富な史料と良好な状態で保存されている城館群は、鎌倉時代から戦国時代の水軍領主の活動や領域支配の実態と紀伊半島の政治情勢を知ることができる希有な事例です。

八幡山城跡 虎口調査状況（白浜町教育委員会提供）

史跡の新指定9
大元古墳（おおもとこふん）
島根県益田市

日本海を望む丘陵上に4世紀後葉に築かれた墳長85mの前方後円墳と径12mの円墳です。自然地形を巧みに利用して造られており、そのため後円部はいびつな形をしています。日本海側に面する墳丘より下の斜面部分には基壇状の造成がなされ、古墳を一回り大きく見せる効果を果たしています。古墳時代前期の前方後円墳としては本州の日本海側で最も西に築造されたもので、古墳の各地への展開とヤマト政権の影響の広がりを知る上で重要です。

古墳全景（益田市教育委員会提供）

史跡の新指定10
讃岐国府跡（さぬきこくふあと）
香川県坂出市

古代、讃岐国の政治・行政を担った役所跡です。発掘調査により国府成立の前段階から衰退に至る、7世紀中葉から13世紀にかけての国府域の変遷が明らかになりました。また讃岐守を勤めた菅原道真による漢詩集である『菅家文草』の記載や付近の地割などから国府と周辺景観を復元することができるなど、古代国家による地方支配の実態を知る上で重要です。

大型建物調査状況（香川県埋蔵文化財センター撮影）

史跡の新指定11

引田城跡（ひけたじょうあと）

香川県東かがわ市

瀬戸内海に突き出た丘陵上に立地する、戦国時代に讃岐国を治めた生駒氏により整備された城跡です。瀬戸内海の海上交通の要衝地であり、かつ、阿波国との国境付近という軍事・経済上の拠点に当たり、高松城、丸亀城とともに生駒氏による領国支配の拠点として機能しました。慶長期の城郭が良好に保存されているだけでなく、豊臣系大名の経済・軍事政策や領国支配体制を知る上で重要です。

北二の丸の高石垣（東かがわ市教育委員会提供）

史跡の新指定12

阿恵官衙遺跡（あえかんがいせき）

福岡県糟屋郡粕屋町

古代、糟屋郡の郡家（郡役所）で、政庁、正倉といった役所を構成する施設が良好な状態で検出されています。また、西海道駅路等の古代の幹線道路網の結節点に立地するなど、古代の役所の立地環境が判明しました。成立は郡という行政区画が成立する以前の7世紀後半まで遡り、8世紀後半までその変遷をたどることができるなど、地方役所の立地や成立時期、変遷を考える上で重要です。

政庁全景（粕屋町教育委員会提供）

史跡の新指定13

杵築城跡（きつきじょうあと）

大分県杵築市

豊臣政権から江戸幕府の成立、安定へと向かう社会・政治情勢の変化に応じて、丘陵上に主要施設を配し舟入を伴う段階、舟入を埋め立て、藩主御殿を構築するとともに台山地区の城郭を破却する段階へと、その構造が大きく変化することが確認されました。また、「一国一城令」による破却以前の城の建物構成や構造が分かるなど、江戸時代初期の城郭の実態を知る上でも重要です。

天守付近調査状況（杵築市提供）

史跡の新指定14

鹿児島島津家墓所

鹿児島県鹿児島市・指宿市
垂水市・姶良市・薩摩郡さつま町

鹿児島藩主島津家歴代の墓所、一門家（越前・加治木・垂水・今和泉の各島津家）の墓所、一所持の宮之城島津家の墓所として営まれたものです。藩主家の墓所では、墓碑に山川石という石材を用いて、一門家より規模の大きい宝篋印塔を造立しています。国持大名や有力家臣団としての威厳と風格を備え、一定の規範のもと各墓所の独自性も認められ、鹿児島藩における墓制、階層構造を知る上で貴重です。

藩主島津家墓所（鹿児島市教育委員会提供）

史跡の新指定15

白保竿根田原洞穴遺跡

沖縄県石垣市

多量の化石人骨を伴って後期旧石器時代に当たる更新世末期の墓葬及び墓域が発見された、日本で初めての事例です。完新世初頭から縄文時代後期に当たる時期の墓葬と合わせて、石灰岩洞穴や岩陰を利用した葬送習俗の長い歴史をたどることを可能としました。20個体以上の化石人骨が出土したことから、人骨そのものからも遺伝学的、形質人類学的な重要知見をもたらした点で画期的な意義を持ちます。

遺跡地遠景（沖縄県教育委員会提供）

名勝の新指定1

成田氏庭園

青森県弘前市

江戸時代末期から近代にかけて津軽地方に特徴ある作庭技法を継承した大石武学流庭園の優秀な事例のうち、流派の作庭規範を典型的に示しているとともに全体構成を良好に伝えています。大石武学流宗家5代の池田亭月の代表作として重要なものです。

本庭 座敷から（弘前市教育委員会提供）

名勝の新指定2

對馬氏庭園（つしましていえん）

青森県弘前市

江戸時代末期から近代にかけて津軽地方に特徴ある作庭技法を継承した大石武学流庭園の優秀な事例のうち、観賞軸線を斜めとする点に特徴を有しています。大石武学流宗家5代の池田亭月から宗家6代の外崎亭陽への作庭流儀の継承を考える上で重要なものです。

本庭 鑑賞上の軸線（弘前市教育委員会提供）

名勝の新指定3

須藤氏庭園（青松園）（すとうしていえん せいしょうえん）

青森県弘前市

江戸時代末期から近代にかけて津軽地方に特徴ある作庭技法を継承した大石武学流庭園の優秀な事例のうち、明治時代末期に宗家4代の小幡亭樹により作庭されたと伝えられる庭園です。座観と逍遥（しょうよう）の観賞形式を併せ持ち、亭樹の作庭技法をよく示している点で重要なものです。

本庭 座敷から（弘前市教育委員会提供）

名勝の新指定4

哲学堂公園（てつがくどうこうえん）

東京都中野区

哲学館（後の東洋大学）創始者の井上圓了が、精神修養の普及を目的として、ソクラテス、カント、孔子、釈迦を祀った四聖堂を明治37年に建築した私設公園を起源とするもので、昭和時代初期にわたって造営された哲学を主題とする都市公園の固有な事例です。

時空岡（中野区提供）

登録記念物（遺跡関係）の新登録1

二ケ領用水（にかりようすい）

神奈川県川崎市

慶長16年（1611）、多摩川右岸の低地（稲毛領・川崎領）の新田開発を目的として開削された用水です。近代以降、桃畑や梨畑にも利用され、昭和になると工業用水としても利用されました。現在、農業・工業用水としての役割をほぼ終えましたが、一部区間は市民が親しめる空間として整備されています。近世・近現代の川崎の歴史を理解する上で意義深いものです。

円筒分水（川崎市教育委員会提供）

登録記念物（名勝地関係）の新登録1

染谷氏庭園（そめやしていえん）

千葉県柏市

江戸時代に名主役を務めた染谷氏の庭園です。主屋に南面する庭園、長屋門等の建造物、旧畑地のほか、アラク山と呼ばれる屋敷林等が一体となって、幕末から近代にかけて整備された旧家の屋敷地の地割や庭園の様子をよく伝えています。

主屋南庭（柏市教育委員会提供）

登録記念物（名勝地関係）の新登録2

魚津浦の蜃気楼（御旅屋跡）（うおづうらのしんきろう（おたやあと））

富山県魚津市

発生地域や時期が限定される稀有な上位蜃気楼を生じる魚津浦の沿岸において、寛政9年（1797）に加賀藩主前田治脩が参勤交代で滞在した際に出現した蜃気楼を描かせた「喜見城之図」が残されています。その滞在場所であった御旅屋の跡地を登録するものです。

御旅屋跡からみた蜃気楼　2017年5月21日
（魚津市教育委員会提供）

登録記念物（名勝地関係）の新登録3

長峯氏庭園（旧河原氏庭園）

長野県長野市

江戸時代の松代城下に整備された3系統の水路を現代まで保ち、簡素なつくりの中に武家の庭園の趣を伝える池泉庭園です。西に象山を控え、門の前を沿道の水路である「カワ」、敷地内を「泉水路」と畑地の水路である「セギ」が通ります。

全景 東から（長野市提供）

登録記念物（名勝地関係）の新登録4

横山氏庭園

三重県三重郡菰野町

菰野地域の旧家である横山氏が、昭和43年（1968）に書院の新築と茶室の移築を行った際に、重森三玲に設計を依頼して造られた庭園です。心字形に築山を築いた表庭、斜線状の区切りを設けて間に赤砂と白砂を交互に敷いた裏庭等が特徴的です。

表庭（菰野町教育委員会提供）

地域と学校の連携・協働体制の実施・導入状況について

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課

文部科学省では、新学習指導要領のポイントとなる「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、コミュニティ・スクール（学校運営協議会を置く学校）と地域学校協働活動の一体的な推進による地域と学校の連携・協働体制の構築を推進しています。本調査は、これまで実施していた「コミュニティ・スクール導入状況調査」の内容に、新たに地域学校協働活動に関する調査を加え、一体的な全国調査を初めて実施しました。この度公表しました令和元年度の調査結果を説明します。

調査の概要

調査基準日：令和元年5月1日

調査対象：都道府県及び市区町村教育委員会（学校組合を含む。）

主な調査項目：コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入状況、地域学校協働本部の整備状況、地域学校協働活動推進員等の配置状況等

調査結果のポイント

コミュニティ・スクール導入校数は、調査開始以来最高の増加数となり、全国で7，601校となりました。地域学校協働本部数は、9，387本部となり、全国の公立小・中・義務教育学校のおよそ半数をカバーしています。また、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部をともに整備している小・中・義務教育学校は、全国でまだ14・1％ですが、どちらかの仕組みにより、地域と学校が連携・協働する体制ができている学校は、約60％となっています。

調査結果の概要

（1）コミュニティ・スクールの導入状況

全国の公立学校におけるコミュニティ・スクールの数　7，601校（導入率21・3％）

（前年度から2，169校増加（導入率6・6ポイント増））

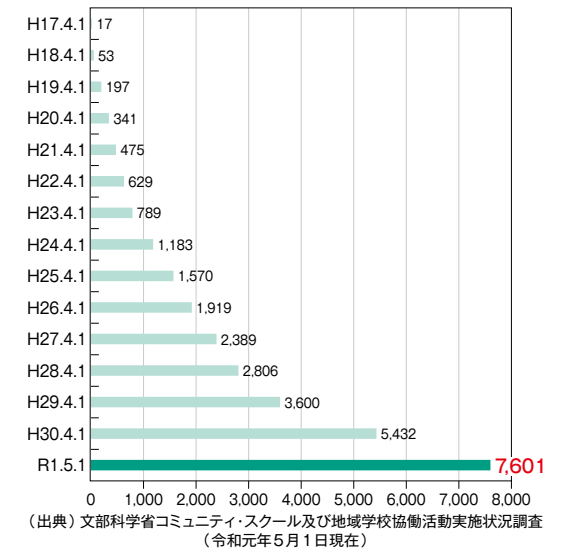
（2）地域学校協働本部の整備状況

Ⅰ全国の地域学校協働本部数　9，387本部

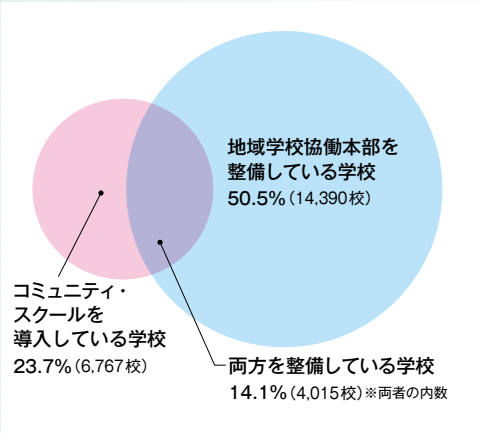
Ⅱ全国の公立小学校、中学校、義務教育学校において地域学校協働本部がカバーしている学校数　14，390校（50・5％）

（3）コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の一体的な整備状況

全国の公立小学校、中学校、義務教育学校においてコミュニティ・スクールと地域学校協働本部をともに整備している学校数　4，015校（14・1％）



全国のコミュニティ・スクールの数



※学校数の母数は今回調査において教育委員会から回答のあった小学校、中学校、義務教育学校数としている。

（4）地域学校協働活動推進員等の配置状況

全国の地域学校協働活動推進員等　26，613人

このうち教育委員会が委嘱している地域学校協働活動推進員　5，175人

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動

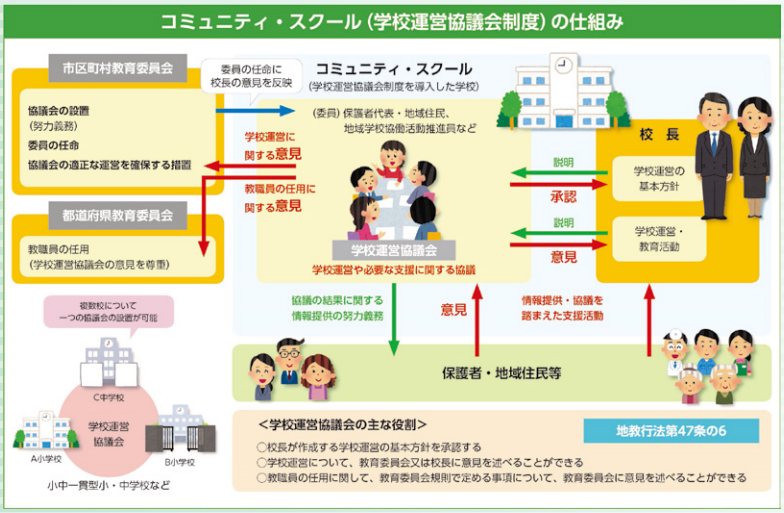
○コミュニティ・スクールとは

地教行法第47条の6に基づく学校運営協議会を設置した学校のことをコミュニティ・スクールといいます。

学校運営協議会には、主に次の三つの機能があります。

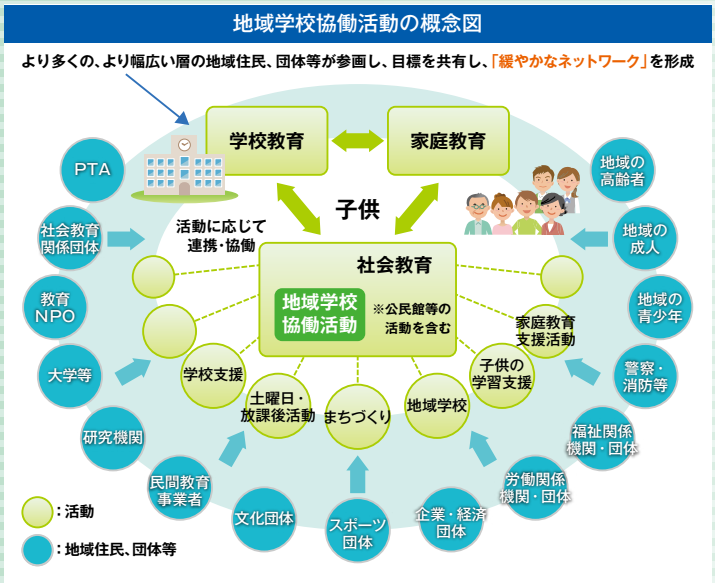
- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について教育委員会に意見を述べることができる

コミュニティ・スクールは、学校と地域住民等が目標やビジョンを共有し、力を合わせて学校運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校づくり」への転換を図るための有効な仕組みです。



○地域学校協働活動とは

地域学校協働活動とは、社会教育法第5条に基づき、地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして行う様々な活動です。また、地域学校協働本部は、幅広い層の地域住民・団体等が参画し、地域と学校が目標を共有しながら「緩やかなネットワーク」を形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制です。



今後の推進方策について

文部科学省では、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を更に一体的に推進するため、フォーラムの開催や自治体へのCSマイスター（コミュニティ・スクール推進員）派遣などに加え、地域と学校の連携・協働体制構築事業のために必要な予算を確保するなど、様々な取組を進めています。

令和元年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課

地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動に係る文部科学大臣表彰が行われました。

文部科学省では、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動のうち、他の地域の模範となる活動に対して文部科学大臣表彰を行っています。この地域学校協働活動は、地域全体で次代を担う子供たちを育成するために、地域と学校が連携・協働し、地域の教育力の向上を図り、社会総掛かりでの教育の実現を目指すことを目的としています。

今年度は、学校運営協議会、地域学校協働本部関係団体等により実施されている合計100の活動に対する表彰式が、令和元年12月2日（月）に文部科学省東館3階講堂にて行われました。

表彰式では、青山文部科学大臣政務官が受賞団体の代表である福岡県春日市立春日小学校の福島隆幸校長に表彰状を授与した後、「来年度より小学校から順次、全面実施となる学習指導要領では、『社会に開かれた教育課程』の実現を目指すこととしています。新しい時代に必要となる資質・能力を育むためには、社会と密接につながった学校教育の実践が不可欠であり、その実現のためには、コミュニティ・スクールや『地域学校協働活動』の取組を全国で推進することが重要です。」と述べるとともに、各地域で子供たちのために活動されている方々に対して感謝と敬意を伝えました。

これに対して、受賞団体を代表して岡山県早島町の徳山順子教育長は受賞の喜びを述べるとともに、「今後も多くの方々と連携・協働することにより、グローカルな視点で子供を育てていきたい」という思いを話されました。

その後、「地域と学校で目標・授業をデザインする」というテーマで、国立教育政策研究所志々田まなみ総括研究官がコーディネーターとなり、益田市立豊川小学校、上越市立春日小学校の事例発表によるシンポジウムが開かれ、表彰式は終了しました。

（参考）表彰対象の活動一覧
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/11/__icsFiles/afieldfile/2019/11/20/1422668_003_1.pdf

表彰状授与　春日市立春日小学校（福島隆幸校長）

受賞者代表挨拶　岡山県早島町（徳山順子教育長）

文部科学広報

文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

文部科学広報　令和元年 12月号　No.241

（発行・著作）
文部科学省大臣官房総務課広報室
〒 100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
TEL：03-5253-4111（代表）
URL：http://www.mext.go.jp/
E-mail：mextjnal@mext.go.jp